

## 響き渡る神の言葉

テサロニケの信徒への手紙—1章4～8節

関東教区総会議長、大宮教会牧師 熊江 秀一



植物学者の牧野富太郎さんの人生を基にした、NHK朝の連続テレビ小説「らんまん」を見始めてから、公園や道に生えている草花に目がいくようになりました。散歩に付き合ってくれる娘がスマホのアプリを教えてくれて、草花の種類を調べるように。神さまが造られた草花はどれも素晴らしいです。「雑草という名前の草花はない。それぞれに草花に名前がある」という牧野博士の言葉を思われます。

ドラマは高知県の佐川という小さな町を舞台に始まりました。牧野さんの故郷です。私にとっても佐川は懐かしい地名でした。神学生時代に夏期伝道実習先の一つとして遣わされた教会がある町です。この派遣を機に、自主的に5回、神学校の休みのたびに訪れました。キリスト教学校の教師を目指していた私が、教会で伝道する楽しさを教えられた教会です。礼拝出席10人程度の無牧の教会でした。でもこの小さな教会の伝道に対する情熱は驚きでした。教会から車で1時間近くの山奥の小さな集落に、子ども会と称して伝道に行きます。その公民館に子どもたちの7割、70人ほどが集まってきます。別の集落でも6割ほどの子どもたちが来ます。この町では、教会は「キリスト」と呼ばれ、信者は「キリストさん」と呼ばれていました。小さい教会がその地に根付き、信徒たちが力強く御言葉を語り、伝道している姿に、教会で仕える楽しさ、喜びを教えてくださいました。

正教師となり初めて遣わされたのは新潟地区の新津教会でした。ここでも信徒の皆さんの信仰に励まされ、伝道の情熱に教えられ、あつという間の楽しい22年でした。着任して最初の受洗者はF兄。車椅子を常用する兄でした。自分で車を運転して教会に来ます。しかも目の不自由なH姉の家を經由して。2人が教会に到着するとH姉は車から車椅子を下ろし、F兄が車椅子に乗る補助をして、F兄の案内で教会の中に入ります。その姿は感動的で見事です。教会の姿そのものです。教会の子どもたちも率先してお手伝いをするようになります。やがて子どもたちは教会で成長し、洗礼を受けました。こうやって信仰が受け継がれていく姿を見せていただきました。

テサロニケの教会は誕生して半年ほどの教会で、しかもパウロが迫害に遭って町を出た後は、信徒たちによって教会が支えられていました。しかしその小さな教会から「主の言葉があなたがたのところから出て、マケドニア州やアカイア州に響き渡った」と言われています。小さな教会を通して、ギリシャ中に神の言葉が響き渡ったのです。「響き渡る」とは、楽器や雷が響き渡る時に使われる言葉です。それは美しいハーモニーを奏でつつ、同時に天に響く圧倒的な力にあふれています。「神に愛され」「神から選ばれた」(4節)すべての教会から、神の言葉が響き渡ります。

アドベントに入りました。関東教区の「神に愛され」「神から選ばれた」139の教会・伝道所を通して、クリスマスに向けて、神の言葉が響き渡り、主のご降誕の喜びが満ちあふれることをお祈りしています。

## 地区だより

### 新潟地区



地区長 小池 正造

これまで、新型コロナの蔓延<sup>まん</sup>によって、さまざまな地区行事が中止や縮小されてきました。今年度に入ってからは、以前のような対面での集会在開催されるようになりました。秋にかけて幾つもの集会在企画・実行されてきました。8月15日には、地区社会部などが主催となり、8.15平和集会在開かれました。川野安子さん（元矯風会理事長）をお招きし、「歴史に学ぶ—いまを生きるために」と題し、矯風会の歴史と平和への思いを伺いました。10月9日には、午前に教区部落解放講座が開かれました。講師に浄土真宗本願寺派布教師の麻田秀潤さんをお招きし「新潟同宗連の活動のこれまでとこれから～差別戒名の問題を通して」と題し、宗教における差別の問題と身近に潜むその兆しについて学びました。午後は教会音楽部の講習会在、飯靖子さんをお招きして「苦手な讃美歌にチャレンジしてみよう」を主題に開かれました。礼拝で用いる讃美歌について、奏楽や賛美についてのさまざまなアドバイスをいただきました。10月22、23日には、地区壮年部が一泊での研修会在を六日町で行いました。10月29日には、地区教育部が「心を養う『安全基地』を作ろう！」と題し、大澤秀夫さん（元敬和学園大学宗教部長・隠退教師）をお招きし、講演を伺い、分団ごとにそれぞれが抱える子育てや子どもにまつわる思いを分かち合いました。多くの参加者が分団ごとに分かれ、それぞれの課題を話し合ったことが好評で、誰もが時間が足りなかったと感想を述べていました。そして、この原稿が発刊される頃には、「イエス様と取り組もうSDGs」と題し、小規模教会懇談会在が開かれていることでしょう。この現代社会に立つ教会として、キリスト者として、いかにして持続可

能な社会作りができるのかを、分団での話し合いを中心に行います。

このように幾つもの集会在対面で行われ、活気を取り戻しつつあります。各教会における福音宣教の働きも、これから元気を取り戻してもらいたいと願っています。



多くの対面での集会在復活！

### 群馬地区



地区長 藤田 基道

【人事】4月、甘楽教会に石田透<sup>とある</sup>教師が着任。6月18日に就任式が行われました。同じく4月、原市<sup>はらいち</sup>教会に林原泰樹<sup>やすき</sup>教師が着任。12月3日に就任式を予定しています。既に、共に活動しています。

【活動】2023年度も組み合わせられた教会同士で話し合い、群馬地区講壇交換礼拝を実施しています。同時に、その組み合わせによって教会記録審査を行いました。

9月24日群馬地区壮年部主催で講演会在が高崎教会において開催。アジア学院荒川朋子<sup>ともこ</sup>校長を招き、土から平和を考えることが身近に思われました。当日は会場がいっぱいになるほどたくさんの参加がありました。パネリスト亀田慎也<sup>しんや</sup>さん（講師の弟さん）、湯浅康毅<sup>こうき</sup>さん（新島学園理事長・学園

長)と共に内容を分かち合いました。

10月6日には高崎教会を会場に群馬地区婦人部全体集会を開催。大坪園子<sup>そのこ</sup>牧師(熊谷教会)のお話と歌に聴き入りました。

10月14日新島学園短期大学にて群馬地区教会こどもの集い「みんなでへいわをいのろう」を開催。三浦啓教師との対談形式で永井順子さん(桐生東部教会)が戦争で体験したことをこどもと大人に語ってくださり、貴重な時でした。

同日、新島学園短期大学開学40周年記念式典・講演会が行われました。

北海教区<sup>あらたに</sup>荒谷陽子教師(置戸教会)を招き、11月23日新島学園短期大学で午前は群馬地区大会、午後は群馬地区役員研修会の予定です。



平和を祈りつつ、歌やゲームもある楽しい交わりに！

## 栃木地区

地区委員長 高崎 正芳

栃木地区には16の教会・伝道所のほかに、アジア・アフリカ地域の農村指導者を養成する専門学校アジア学院があります。地区ではアジア学院サンデーを毎年主催して、交流を図ってきました(12教会・伝道所が参加)。鹿沼教会もミャンマー出身の学生(バプテスト教会牧師)を招き、礼拝を持ちました。礼拝後の懇談の中で、旅費が用意

できない自分をコミュニティが献金を募り、アジア学院の研修に送り出してくれたと話されたことが心に残っています。

内戦が続くミャンマーでの宣教、信仰生活の現実には到底一日で理解できることではありませんが、「外にある現実」に触れる貴重な機会となっています。教区の宣教部も「アジア学院サンデー」、「アジア学院ツアー」を行っています。関東教区のホームページをご覧ください。

10月28日、婦人部はアジア学院を会場に修養会を行いました。わたしは予定が重複したために欠席でしたが、荒川朋子アジア学院校長の講演に啓発され、「みんなでゴスペル」の歌声に元気ももらったことが、参加した教会員の笑顔から分かりました。アジア学院は創立50周年記念事業を実施中です。祈りと支援をお願いします。

前後しますが、8月19日には青年部がバーベキューフェスティバルを行い、6教会28名が参加しました。8月27日には教育部が4年ぶりに研修会を開催し、11教会42名が参加しました。

教会関連では、佐野教会に松井初牧師が、那須塩原伝道所の担任教師にジョナサン・マッカーリー宣教師が就任されました。

## 茨城地区

地区長 手束 信吾

今年度、地区委員会をはじめ、地区教師会などもようやく対面で行われるようになりました。中でも嬉しかったのは、9月23日(土)に筑波学園教会とつくばクリスチャンセンターを会場にして4年ぶりにフルバージョンでの地区大会を開催できたことです。テーマは「とにかくみんなで集まろうーお互いに知り合い、共に励まし、キリストにあって希望をもって歩み出しましょう」でした。ほぼすべての教会・伝道所から参加者があったこ

とは、とても嬉しいことでした。おとなと子どもと一緒に開会礼拝を献げ、その後、各教会・伝道所による教会紹介がなされました。それぞれの教会・伝道所の様子や取り組みをみんなで楽しく分かち合いました。午後からは、おとなはワールドカフェ方式で語り合いました。テーマは「子どもたちと共に」「伝道どうしていますか?」「教会の高齢化を迎えて」「あなたにとって教会は?」「教会財政どうでしょう?」「地域に開かれる教会」でした。子どもたちは、タピオカストロー笛づくりをしました。その後、再びおとなと子どもが共に集まり、子どもたちのタピオカストロー笛の演奏、そして、即席の牧師バンドと共に「あの空はどうして青い」「かなしいことがあっても」をみんなで歌いました。みんな笑顔でそれぞれ家路につきました。教会・伝道所の動向としては、6月25日に守谷伝道所の開設10周年と若月健悟牧師を偲ぶ会が開催されました。10年間の歩みを振り返り、心血を注いで伝道された若月牧師のお働きを覚えつつ、感謝と喜びを分かち合うことができました。また、7月23日には日立教会の成田顕靖牧師の就任式が執り行われ、会堂いっぱいの人が集まり、喜びの時となりました。

## 埼玉地区

地区委員長 小林 眞

3月末開催の地区総会で、今年度の宣教活動の主題聖句をパウロの第一コリント3章11節－教会の成長－イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできない－を選ばせていただいた。この土台がズレると、教会が教会でなくなり、キリスト教の独自性も失われていく。逆に言えば、この土台を堅持している限り、地区内合計58の教会・伝道所の歩みは守られるのである。

今年度で地区長も終わるので、ぜひ開催したいと願ったのが、地区全体の修養会である。ただこれを宿泊で行うとなると、その準備作業や費用の金額の多さなどから、一人でも多く参加しやすいように一日とした。

日程は9月18日（月・休）。講師は神学教師の小泉健先生で、講演は「信仰によって生きる」、会場は大宮教会とした。詳細は省くが、結果として、30教会・伝道所、75名の参加であった。これを機に、多くの地区集会をコロナ禍という言葉で中止に追いやられたことを復活させ、従来の地区活動を再開したいと願っている。



修養会講師の小泉健 東京神学大学教授

### 〈最近の地区内の課題〉

#### ●緊急のこと

埼玉中国語伝道所が、今年末で従来使用させていただいた礼拝場所が使用できなくなるとのことで、地区全体にも二度の依頼をさせていただいたが、複数の教会から手が上がったものの結果的には無理となった。4月より、A教師のグループが、B教会近辺の幼稚園で、日曜午前中の礼拝を始められた。B教会では「礼拝をしないでほしい」と願っているが、両者の話し合いは進んでいない。



## 共に生きてきた！アジア学院の50年

アジア学院校長 荒川 朋子

9月16日（土）、アジア学院は創立50周年記念式典を約200人の支援者や関係者をお迎えして、祝福のうちに催すことができました。色とりどりの衣装に包まれた多国籍の人々、多くの国の料理や歌、祝いのメッセージの数々。賑やかに、楽しく祝いの式典が守られたことを神様に深く深く感謝します。

1972年、独立戦争直後の混乱から這い上がろうとしていたバングラデシュの農村に、日本キリスト教協議会奉仕部の要請で日本から救援活動のために、当時の農村伝道神学校東南アジア農村指導者養成所のスタッフであった高見敏弘氏が、後に共にアジア学院の創設に関わる同養成所のスタッフと50人の若者とともに入りました。高見氏はこの若者たちについて、「現地に入ると彼らは慣れないベンガルの文化と地政にすばやく適応し、派遣された村々で回教徒、ヒンズー教徒、キリスト教徒、仏教徒、はたまたアニミストの村民たちと見事なまでに共に汗を流した」と評し、同時に過酷な中で懸命に作業に打ち込む彼らの姿と村人たちの熱狂的な対応に心を動かされました。そして、そこにアジアの農村を念頭に置いた農村リーダーの育成計画、つまりアジア学院の幻を見たと言っています。

それからわずか1年後にアジア学院は今の地に独立した学校として誕生します。それから50年間、毎年世界中から農村の人々のために献身する多種多様な人間たちが呼び集められ、神様が創造された自然と協働して、共に働き、共に学び、共に食し、共に生きるコミュニティが形成されました。これは神様からの尊い「贈り物」です。母国で人々に仕える

農村リーダーとして働く卒業生の数は、50年間で世界62か国、約1400人にのぼり、厳しい状況下でも強い信仰を持ち続け、知恵を出し合い、希望を示してくれる卒業生たちは、私たちのかけがえのない「宝物」であり、原動力でもあります。

2011年3月に起きた東日本大震災でアジア学院のキャンパスは地震と放射能汚染の影響を大きく受けました。復興を果たした数年後にはコロナ禍に見舞われ、2021年度は海外からの学生が一人も入国できないという致命的な状況に追い込まれました。これらの災難を経験して私たちが与えられた希望は、多くの人たちの愛によって支えられ、数えきれないほどの人が行き過ぎ、人生のひと時を過ごし、善い時、悪い時、楽しい時、悲しい時、辛い時、それらすべての時が刻み込まれたこのキャンパスと農場を、未来の農村リーダーを養成するために日々改良し、未来に向けてもっと開かれた場にしていくということです。

そこで50年目の節目に「共に学ぼう、未来の農村のために」というテーマを掲げ、「フードライフ」「気候正義と気候変動対策」「教育」「組織」そして「土からの平和」という5つの分野から総合的にアプローチして歩み続けようと思っています。その中でも特に「土からの平和」は今最も重要な項目だと思っています。日本がアジア諸国に対して行った侵略戦争に対する贖罪の祈りの上にアジア学院が築かれたことを覚え、いのちを育む「土」を愛し、神によって創造されたすべてのものと共に生きることで平和を創造していきたいと願っています。



## — 関東教区の働き — 「教会互助委員会」

教区副議長・安行教会牧師 田中かおる



継続して行っている大事な働きのひとつが「教会互助」です。このたび、教区通信委員会から、互助委員会の働きを改めて説明してほしいとのご要望がありましたので、ここにかいつまんでご紹介させていただきます。

まず、教区のホームページを開いていただくと、最初の画面の左端に「資料集」という項目があり、そこを開くと「関東教区各種申請」という項目が出てきます。そこをクリックすると、ズラッと申請書の項目が出てきます。その中で、18～22番目の教職の「就任式」「按手」「准允」関係を除いた申請を扱うのが、教区の「教会互助委員会」です。つまり、教会活動、会堂のこと、教師とその家族のこと等に関する互助申請を受け付け、それを審議し、常置委員会へ上程し、給付する、ということをしています。

これらの申請は、まずは各地区で受け付け、聞き取り、審議を経て、「互助委員会」にあげられます。「互助委員会」は、隔月の常置委員会開催日において開かれ、各地区長からの説明を受け、その教会や教師の現状を聞き、情報を共有します。その上で、申請が妥当かどうかの協議を経て決定いたします。必要があれば、地区と連動しながら教区が当該教会や当該教師を問安またはヒアリングをすることもあります。出来得る限り、教会や教師の実態に即した対応をしていきたいと願っております。ただし、財源は限られておりますので、その範囲内での対応となります。

互助や支援の内容は、大まかには以下のような内容となります。

①牧師の生活への支援：教区教会互助『教師謝儀互助』と『緊急互助（病気など）』。財源は「ナ

ルドの壺」献金。

②教師の子弟や神学生の支援：支援は貸出金と給付があり、給付の財源は「奨学金指定献金」。貸出金の財源は「教育費互助基金献金」をもって行われています。

③教会活動のための支援（集会、広報、パソコン購入等）：『伝道資金（教区教会協力費・集会/事業）』、『伝道資金（地区伝道支援）（地区が必要と考える伝道方策のため）』。財源はいずれも教団からの「伝道資金」。

④会堂のための支援：『会堂・牧師館建築支援・借入』、上限300万円、返済期間2年。『会堂・牧師館建築支援・給付』、経常収入により上限あり、通算1教会2回まで。財源はいずれも「会堂牧師館建築基金」。

⑤年金・退職金のための支援：『教団年金互助』、1等級の加入であること。『教会退職金積立互助』。いずれも申請は6月常置委員会しめきり、財源は「ナルドの壺」献金。

⑥その他：『教会負担金減免』、特定規模教会（現住陪餐会員10名以下）、財源は「伝道資金」。

お困り事が生じたら、まず地区長にご相談ください。その上で、受けたい支援の詳細をお聞きになりたい場合は、教区事務所までお問い合わせください。

主によって立てられた諸教会・伝道所が、主の御委託にお応えして、それぞれの地で生き生きと福音を伝えることができるようにと願っての互助システムです。互助が有効に活用されることを願う一方、互助の財源はナルドの壺献金や教区負担金で、いずれも、祈りをもって献げられる尊い献金でなりたっておりますので、どうぞ、そのことをご理解の上、今後も祈りをもってご協力くださいますようお願いいたします。

お互いを支えることが喜びとなりますように…。

## 第73総会期第2回、第3回常置委員会報告

報告者 小池 正造

第2回常置委員会を9月12日（火）に、第3回常置委員会を11月14日（火）に大宮教会において行いました

- ・春季教師検定試験受験志願者の推薦について、「正教師試験受験志願者」横内美子師（見附教会主任）、「補教師試験受験志願者」赤岩絵里香氏（甘楽教会信徒）、大下陽子氏（益子教会信徒）推薦を承認しました。
- ・秋季按手礼志願者の面接について、片岡賢蔵師（東中通教会担任）、平澤巧師（春日部教会主任担任）、清水義尋師（安行教会担任）、竹内真理師（深谷西島教会担任）の按手を決定し、11月25日（土）10時30分より、大宮教会において按手礼を行うこととしました。
- ・教区総会の振り返りを行いました。埼玉地区の応援について、今後どのように行うかを検討します。
- ・今後の教区財政の面から収支をどのように考えていくのかを、宣教研究委員会に研究を委託しました。委託内容：「関東教区財政の在り方について」
- ・向山荘債権に関して教団に問い合わせ、アドバイスを受けました。これを受けて、意見交換をし、債権の処理と土地の処分については切り離して考えていくことを再度確認しました。今後、①これまでの経緯を教区総会議長報告に掲載をする。②東中通教会への債権の返済を行う。③会計帳簿上の処理を進める。④土地の管理と売却を進めるという手順を確認しました。
- ・教団伝道委員会開拓伝道援助金の申請（200万円）と、建築資金貸出申請（1000万円）について、新潟愛泉伝道所より出されました。9月常置委員会では現地調査の委員として、横坂幸子委員、小池正造教区書記・新潟地区長と、新潟地区委員（上田晋三氏）を選出しました。11月常置委員会では、現地調査報告を受け、教団伝道委員会へ推薦することとしました。
- ・関東教区「日本基督教団罪責告白」について、学習会を開催いたします。原案について質疑がなされ、リモートでの配信を中心に行うこと、後日視聴用に教区ホームページに掲載をすること、日程を調整して行うこととしました。2024年1月から開催予定です。詳細が決まり次第、改めてご連絡を致します。あわせて、「関東教区 罪責を告白する教会」の100部増刷を可決しました。
- ・新型コロナウイルス対策について、次年度は特別な対策は行わない方向で調整を進めることを確認しました。
- ・2024年度教区予算・教区負担金に関して、2023年度当初予算比2%減で教区負担金を計算することといたしました。背景として、各教会／伝道所において、経常収入が微減している傾向にあるためです。これによって、教区負担金は、39,660,000円（974,000円減）となります。23年度比で負担金が増額する教会数は55教会、減額する教会数は82教会となります。
- ・教団機構改定協議会について、開催を協議しましたが、教団常議員会で協議があまり進んでいないので、今年度は教区では行わないことを確認しました。
- ・教区総会において各地区委員会に付託された教会記録審査について、審査結果の報告を受けました。現時点での未提出教会は13教会（伝道所、活動休止教会は除く）でした。所見として、「承認」「可決」が曖昧な教会があったとの報告を受けています。
- ・互助委員会より、教師謝儀互助の申請について、1,000万円の予算を超えた場合、何らかの処置を行い、申請額通りに支援できない可能性があることの確認を行いました。
- ・宣教部より、社会活動協議会を、沖縄研修として2月19（月）～22日（木）にかけて行う準備を進めていること、あわせて、事前学習会（講師：金井創（佐敷教会））をリモートで行うことが報告されました。事前学習会の詳細の日程は改めて各教会にご案内します。
- ・各種申請に関する件（敬称略）
  - (1) 教会担任教師異動  
那須塩原伝道所 就 ジョナサン・マッカーリー（担・宣）  
深谷西島教会 辞 塚本 望（担・正）  
佐野教会 就 松井 初（主・正）
  - (2) 諸申請  
新潟愛泉伝道所 建物 教団特別財産  
桐生東部教会 土地取得

2023年も残り20日余りとなり、各教会・伝道所でもクリスマスの準備にお励みの毎日と思います。良き備えがされ、心から感謝して御子のご降誕をお迎えますように、お祈りいたします。また、世界の人々の祈りが結集し、全世界に平和な日々が訪れますように願います。

◎教区一覧の追加・訂正をお知らせしました。

すでに、教会・伝道所・学校へ送付しています。

◎各種献金へのご協力をお願いいたします。

教区総会の折に、多くの教会・伝道所から各種献金をお捧げをいただき感謝致します。しかし、まだ献金目標額には到達できておりません。各教会の財政も厳しいことが推察でき、誠に心苦しいのですが、どうか、共にそれぞれの献金の目的を憶えていただき、互いに支え合って伝道の御業を進めていけますように、祈りつつお願い申し上げます。

◎新型コロナウイルス対策支援金について

新型コロナ対策支援も3年目になりました。徐々に申請教会・伝道所の数が減少しています。

しかし、教会会計が小さくなったままという状態も多く見受けられます。一般社会にも大変な時代がやってこようとしているようです。

この申請は、2月13日（火）常置委員会での審議が最後になります。申請を検討されている教会・伝道所は締切日前にお送りください。

◎2024年度謝儀互助申請について

新年度の謝儀互助申請書は、必要書類を添付して地区へ送付して下さい。地区決裁後、教区締切の1月31日（水）までの必着となっています。

※注意：地区決済の無いものは受付できません。

◎教区事務所 冬期休業日のお知らせ

期間 12月27日（水）～1月5日（金）

※土・日・月・祝は通常の休業日となります。

※緊急時の連絡は、小池正造書記まで

東新潟教会 025-247-0058 F

※棚橋事務補助職員、9月末にて退職。

教区事務所は従前の1人体制に戻りました。

新型コロナ感染拡大の終息宣言がないままに、インフルエンザはじめいろいろな流行性の病気が増えています。やはり個々が、うがい・手洗い・マスク着用などの対策をし、免疫力を高める食事・しっかり睡眠・適度な運動などの基本的なことに気を付けて、健康を守ることが一番なのかもしれません。皆さんが元気で過ごせますようにお祈りいたします。

◎被扶養者資格再確認報告書の届出完了しました。

該当者された皆様方のご協力を感謝致します。

年度途中でも扶養者の異動があった場合は、5日以内に教区事務所までご連絡下さい。

◎冬季賞与と社会保険料について

賞与保険料は、標準賞与額（支給額の千円未満を切捨てた額）に各料率を掛けて算出した額。

年齢 項目	40 未満	40 以上 65 未満	65 以上 70 未満	70 以上 75 未満
健保	9.82%	9.82%	9.82%	9.82%
介護		1.82%		
厚生	18.30%	18.30%	18.30%	
児童	0.36%	0.36%	0.36%	

※算出額の小数点以下は、4捨5入します。

賞与保険料の負担…教師と教会・伝道所で折半。12月末までに納入してください。

※自動払込日は、12月26日（火）です。

◎自動払込日に注意！

12月は賞与保険料も加わります。また、年度末の3月は少々早い引落日になります。確実な入金をしてください。教会負担金・ナルド献金・各種献金等を一緒に引き落としを希望される場合は、引落日の4日前までに金額をご連絡ください。

◎「医療費のお知らせ」をお送りいたします。

昨年10月～今年9月までに受診した医療費の内訳になります。内容をご確認ください。これは、医療費控除の申告手続きに使用することもできます。



り教会数が減少した北海教区は、教団と協議の上で教団総会の決議の上で、伝道計画を立てます。その中身は「北海道内で開拓伝道を行い、5年間の謝儀（給料）は教団から支出する。ただし、年毎に20%減額、5年後には財政的に完全自立する」システムでした。

その後、全国から多くの牧師が伝道意欲に燃えて入道します。しかしながら、広大な土地（九州の2.5倍）と厳しい自然条件（時と場所では気温が-30度）、地平線に広がる農村・寒冷の漁業地域での伝道は厳しいものがありました。夜逃げ、諦め、心の病など、様々な出来事が起こり、北拓伝で開拓された26教会のうち、牧師が生活できる謝儀を拠出できる教会になったのは4教会でした。（現在でも北海教区は小規模教会が全体の89%ですが…）

## 5、北拓伝の反省から生まれたビッグイベント

「牧師を支えきれなかった」、「他教会のことを我がことのように心配するべきだった」という反省から、北海教区ではその後、牧師の生活の基礎を支える「教職謝儀保障」と、顔と顔が見えるお付き合いをその目的とした「年頭修養会（以下「年修」）」が生まれます。

現在の北海教区財政にもそれが如実に表れており、教職謝儀保障やその家族への奨学手当、教会援助費、会堂建築給付金などを含めた「互助費」は教区支出予算の約50%を占めます。

そして、農閑期（冬期間）に開催される「年修（第70回を数える）」には、新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下「コロナ」）以前では、約350人が集まって互いに親交を深めていきました。

また、年修後の同じ場所で「宣教協議会」、「小規模教会研究協議会」、「牧会者研修会」などが開催され、更に深く互いの喜びや苦悩を共有することが出てきます。それが次の項の『各教会の「痛みと喜びの物語」を語り継ぐ』ために必要なことでした。

## 6、北海教区の自己紹介③（ビッグイベント影響編）

2つのビッグイベントの影響もあり、北海教区は現在、以下のA~Gを大事にしています。紙面の都合上、箇条書きで書かせていただきます。

### A) 弱さ（失敗、しんどさ）を絆に、笑いに

→元々人は弱い。それを出会う度に共有する。

そこがスタートだと意外に皆が同じ気持ちになれる。「皆、同じなんだな。な～んだ、一人ではないんだ。」とホッとして笑いが起きる。

### B) 各教会の「痛みと喜びの物語」を語り継ぐ

→他教会の大小の物語を知ることによって近く感じる。自らの教会の傷みは「恥づかしい事」かもしれない。けれども、それを他教会と共有すると、力が湧いてくる。

### C) マイナスの出来事を皆で受け止める潔さ

→イヤなことは言いたくない。でも実はそれを共有することで心の距離は近くなる。そして、互いに知ろうとして、無事を祈り合う。

### D) 連帯は必須である、なぜなら「死と直結」だから

→繋がっているとすることが教会を生き返らせる。厳しい自然条件の中では連帯の温かさは必須。もともとクリスチャンは人口比1%。自分の住むコミュニティでも孤独を感じることもある。教会同士で繋がらなければ、さらに孤独を味わうことになる。

### E) 「助けて」と言える関係性

→財政的・精神的に「助けて」と言えると気が楽。そしてそれを気楽に言えるのが連帯でもある。北海教区は小規模・大規模に関わらず、財政的・人材的に「助けて!」と言える。そして、小規模が大規模を支え、その逆もある。それはとってもステキなこと。

### F) 問題・課題があれば寄ってたかって解決

→「助けて!」と言えることで、仲間の問題・課題が分かる。それに対するタスクチームを作ることには難しいが、三人寄れば文殊の知恵、パツと動いて、寄ってたかってなんとか解決。これも連帯。

### G) 教会を孤立させないための専門家「教区幹事」

→専従の幹事を置くことで、広大な土地をカバー。訪ねて各教会の小さな課題や問題を聞き、北海教区の課題とする。通称：「北海教区の牧師さん」。

## 7、各教会の物語「①人材で解決」「②常にお付き合い」

### ①「人材で解決」

興部伝道所と稚内教会は兼務牧会体制。教会同士の距離は約190キロ（大宮一長野間の新幹線営業キロ）。その間に教会はなく、隣の教会になります。

この兼牧を実施するのは、I牧師。「大変なことも軽やかに」、「難しいことも簡単に置き換える」事のできる彼のバイタリティーによって遠距離兼牧が成立しています。

牧師が少ないこのご時世では感謝ですが、彼以外は出来ないのも事実です。彼が事情でいなくなれば、どうなるのか…と考えてしまいます。ですが、

次に与えられる牧師がご自分の賜物を使って、アイデアを出してくれることに多少なりとも期待しています。そして、そのときこそ、教区の出番になるのでしょうか。

## ②「常にお付き合い」

札幌手稲教会は「手稲はこぶね教会」と「札幌富丘伝道所」が3年前に合併して出来た教会です。今後、兼牧や無牧師教会が増える状況では、合併なども視野に入ってくることでしょう。

合併となると、どうしても消極的な意味合いが強くなります。人が少なくなり、牧師も赴任できる財政状況ではない。だから、仕方なく兼牧や合併を行う…という後ろ向きな姿勢が想像されます。

ですが、札幌手稲教会は仕方なく合併ではなく、互いの人材が集まれば、新たな伝道宣教ができるはず、今以上の宣教伝道ができるはず、と考えた夢と希望の合併でした。私達には、どんなときにも夢と希望が必要なのです。それが叶わなかったとしても、夢見て、希望を抱いて歩むことを聖書から教えられているはずです。

そのために以前から常に教会同士でお付き合い（合同礼拝・合同愛餐会など）を重ね、お互いの顔が見えるお付き合いをしてきました。

## 8、フィナーレ。お読みいただき感謝。

北海教区は他教区と同じく財政難です。「コロナ」により、各教会の財政は急激な右肩下がりになりました。それにより負担金減額は避けられません。牧師謝儀も同様ですが、牧師の働きは兼牧・複数代務なども含めて、今後更に負担が大きくなるでしょう。

教会も牧師も「助けて」と言える関係性、それに応える連帯、将来を見据えた宣教協力が必要になり、その具体的な打開策は教団、教区、教会がタッグを組むことが大事になると思います。

日常においては「お節介」、「まずはやってみる」、「顔が見えるお付き合い」、「孤立させない」、「笑う」、「弱さを認めて絆にする」、「具体的な夢と希望」が大切になってきます。それらすべてが連帯であり、宣教協力であることを信じて、また他教区との連帯も大事にしながらか、これからも神の導きのもとに歩んで参ります。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。



## 静かに迫る苦境から逃げずに前向きに

今野 善郎（那須塩原伝道所）

教区「宣教を考える集い」に期待して参加した。なぜなら、当伝道所は設立以来20年にわたり教区謝儀保障の支援を受けてきた。コロナの中、2年間の無牧師の後私が着任した。私は年金があるが、次の招聘は教区謝儀互助に頼るしかない？いや、何か方策はあるはず、逃げずにか具体的イメージを描きたいとの期待で参加した。

### 【響いた講師の言葉】

- ・地方の小規模教会が無牧になることが、マイナスの文脈で考えられてきた。地方の小規模教会がそのような状況でも、礼拝を守り続ける群れであり続けていることに豊かさと尊敬を学びたい。
  - ・お互いに「助けて」と声を出せる関係を育むことが大切で、声があったら直ぐに、おせっかいなくらい協力する関係が大切。弱さを笑いにし「本当に私たちダメよね。」「仕方ないね。」「また助け合おうね」と弱さを言える関係が大切である。
  - ・北海道教区での宣教協力や共同牧会・教会合併は、各教会は生まれも、育ちも違うことが前提。教会員は「牧師を支えられない教会」と頭でわかりながらも、次第にこのままでは立ち行かなくなるとの思いが募るが、教会独自で自分たちからはなかなか動けない。
  - ・共同牧会・教会合同には、「これからの夢」が必要。交流と過程を大事にし「共同牧会、教会合同は消極的・仕方ない」の意識からの脱却する前向きさが必要である。
  - ・現実の厳しさを直視し、逃げずに受け止め、静かに待つことも大切。教会の規模でははからずに、すべての教会は対等との意識を大事にする。「共同牧会」「教会合同」が、一つの信仰共同体となるには少なくとも5年はかかる。
- ### 【講演を聞いて考えさせられたこと】
- ・栃木県北（3教会、1伝道所）も、それぞれこれまでの教会の歩みと宣教方針を尊重しながら、共に歩む「宣教協力」ができればと願った。数年かけて丁寧にお互いの情報発信と交流を大切にゆきたい。具体的イメージは、その交流の中で育つことを信じたい。
  - ・教会理解の転換も必要である。「〇〇教会の信徒」よりも先に「主イエスの弟子」であり、教会を守るためではなく、信仰と礼拝を守るための群れである視点を大切にしたい。
  - ・謝儀互助教会が固定化し、その財源に制約が見えている教区財政のなかで、東北教区「宣教協同連帯金規則」や会津地区の共同牧会の先例から学びたい。

5月26日に、つくば学園教会で関東教区教会婦人会連合第49回総会を開催し、28期の活動が始まりました。総会後は、ゴスペルのミニコンサートを聴き、交流会の時を持ちました。他地区・他教会の方々からこの総会の持ち方、婦人会活動についての思いを語り合いました。いくつかのテーマを決めて話し合いの時を持ちましたが、そのテーマにこだわることなく、色々なことについて話し合う時間を持つことができました。豊かに恵まれて楽しい時を過ごし、笑顔でそれぞれの教会へ戻ることができました。

また一方で、高齢のために出席がかなわない方々がおられます。その方々のことを憶えて、色々な工夫をこらすことにより、教会婦人会連合につながっていることを感じられる活動を展開していきたいと願っています。

繰り返し続く新型コロナウイルス感染者数の増減、例年より早くから広がったインフルエンザ。ウクライナで長く続いている戦闘、大きな争いに発展するのではないかと危惧するガザの状況。私たちをとりまく世界の状況は、どれも不安を募らせることばかりですが、主イエス・キリストにこそ私たちの希望と平安があることをしっかりと憶えて、揺らぐことなく活動を展開したいと願います。

第28期全国教会婦人会連合の主題は「キリストにある平和を共に追い求めよう — ローマの信徒への手紙に聴きつつ —」です。

第28期委員（地区・教区＝副委員長：川村道子（埼玉・大宮）、書記：江村恵子（群馬・桐生東部）、会計：石井正子（茨城・土浦）、広報：田中暁美（新潟・長岡））〔敬称略〕一同、互いに祈り合うことを大切にして、主の働きを待ち望みつつ活動していきたいと思えます。諸集會に工夫を凝らして開催していきますので、是非ご参加ください。また28期の活動のために、お祈りください。

去る6月19日（月）～20日（火）狭山教会を会場として関東教区の新任教師オリエンテーションが開催され出席出来た事、心より神に感謝致します。

一日目は開会礼拝が執り行われ、「狭山事件」を覚えて実際に事件当時の道程を辿ることで当時を思い起こすと共に、未だ結論には至っていない事件でもあることを知ることが出来ました。被害者の声を支援する方々の声を聴き、また教会において信仰生活を送る私達もまた人を冤罪と言う名の鎖から解き放たれるよう神に信じ祈って参りたいと思うのです。狭山事件を契機として、学び深めることで二度と同じ事は繰り返さないようにとの想いを狭山事件当時の道程をお集まりの参加者の方々と歩いている中で感じました。そして教会だけではなく、この世にある冤罪、に対し見直し（再審査請求含め）が為されていくように、聖霊の働きがあるよう祈る一人で在りたいと思うのです。

改めて学ぶ場を整えて下さった関東教区の新任教師オリエンテーションの為に働いて下さった、また祈って下さった一人一人に感謝致します。

二日目は朝の祈祷会が神によって与えられ、具体的な教区の働きを知る時となりました。祈祷会の一部を担わせて頂けたことに感謝致します。普段私も聖書の一節（日毎の糧）を口にしながら一日を始めるので、日常にしながら祈る事が出来た事、そして祈祷会で語る先生の言葉を皆で味わう事が出来たのは幸いでありました。

さらにその後、関東教区執行部や各部の具体的な動きを知れました。お聞きして関東教区にはそれぞれの教会が歴史的背景や規模が違っていてもあらゆる面において祈り支え合っていると感じました。今回の参加させて頂いた関東教区の新任教師オリエンテーションも神によって示され、教区の教会の祈りの内に開催されたということに感謝致します。

二日間の間にはオリエンテーションに参加された方々と御食事を交えての話もすることが出来ました。感染症の影響下が未だある中で感染の対策をしながらそれぞれの方と話せたことは大きな喜びでありました。改めて関東教区の新任教師オリエンテーションに私を招いて下さった神と関東教区に繋がる全ての方々に感謝させて頂きます。

願わくは、次年度以降も関東教区の新任教師オリエンテーションが開催されていきますよう信じお祈りさせて頂きます。

ありがとうございました。

# 部落解放だより

No. 61

2023年12月10日

関東教区部落解放推進委員会

発行人代表 栗原 清

埼玉県入間市河原町 8-6

武蔵豊岡教会

連絡先 tel 04-2962-6191

郵便振替 00140-3-67727

加入者 日本基督教団関東教区

## —3期目委員長就任にあたって—

### 「主の召しに従う」

関東教区部落解放推進委員会委員長

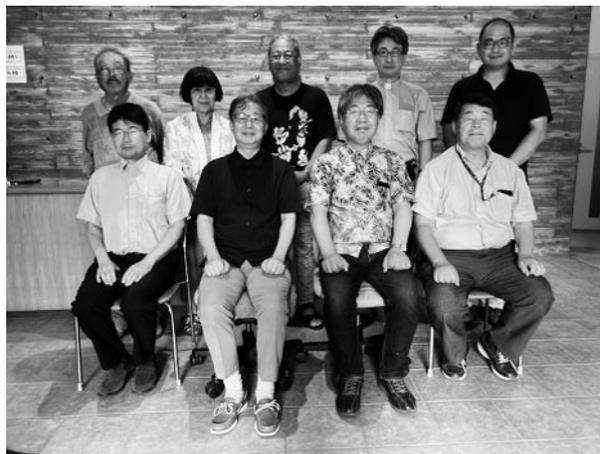
(埼玉地区) 武蔵豊岡教会牧師 栗原 清

この度、第73回関東教区総会で教区常置委員に選出され、第一回教区常置委員会で常任常置委員に選出されました。教区常任常置委員に選出されると特定の教区特設委員会の責務を担う事となります。

今回も主の召しに従う事と信じて受け止め、第74～75 総会期の部落解放推進委員会の委員長としてお仕えることになりました。欠けの多く未熟な主の僕・器ですが、皆様のお祈りと、主の豊かな御言葉と聖霊の働きと委員の皆様を支えられて、この責務を果たして参りたい、と主に願っています。どうぞ、宜しく願います。

私事ですが、来年はついに還暦を迎えます。身体の老化を感じています。特に元々弱さを憶える聴力の衰え、老眼、また若年時の交通事故による左足の障害が優れなくなってきており、長時間の歩行や立ち続けることが厳しくなってきています。聴力もその日の天候の気圧の変化などで聞こえ方が変化しており、会話にも少々難を憶えています。しかし、その様な弱き者を主が用いて下さる事は、感謝と喜びに満たされます。

主イエスは「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う」(ヨハネ福音書10・27)、と語られました。主の御声を聞き分ける耳は、常に主の御言葉に聞き続ける事で与えられます。それ故、これを怠らず、今回与えられた責務に邁進して参ります。その中で、この世に於ける小さな声にも、聞き分ける耳が養われる事を主に願い、主の召しに従う歩みが主によって整えられる様に祈っています。皆様には、教区部落解放推進委員会の働きを憶えて、どうぞ、お祈り戴ければ幸いです。



## 関東教区部落解放推進委員会委員

<後列左から>山本安生, 川村道子, 盛合尊至,  
成田顕靖, 大下正人,

<前列左から>川上純平, 栗原 清, 飯塚拓也,  
平澤 昇 (敬称略)

## <新委員の自己紹介>今年度この委員会

に新しく加わった委員は次の2名です

### ◇ 川村道子委員 (教区教会婦人会連合副委員長、埼玉・大宮教会員)

6月開催の新任教師オリエンテーションの講座(講師 安田 聡さん)「狭山事件に学ぶ」と狭山現地研修に参加させていただきました。そこで神様が今も差別に苦しむ人々と共に有り、解放の御業を続けておられることを知り、心が開かれました。石川一雄さんの再審が早くなされることを求めてお祈りしていきたいと思えます。皆様のお力をお貸してください。

### ◇ 川上純平委員(群馬・太田八幡教会牧師)

今年度より委員(会計)を担当させていただきます。宣教としての部落差別根絶のために自分なりに励んでいきたいと思えます。群馬地区では同宗連も担当させていただいています。初めてのことで分らないことも多いですが、よろしく願います。

## 第15回部落解放全国会議 in 京都 参加報告

テーマ：水平社100年と「わたし」

そしてこれから

きれいなことばではなくてもいい 一人ひとりの言葉で語ろう

期間：2023年9月26日（火）14時～28日（木）12時 於京都教区・京都教会



京都教会

昨年の開催予定が新型コロナウイルスの為に、今年に延期された全国会議が、部落解放センターと京都教区の実行委員会主催で、京都教会を主会場として開催された。関東教区の部落解放推進委員会から飯塚委員、盛合委員、大下委員、山本委員の4名が参加したので、報告します。

### 全体スケジュール：

#### <1日目：26日（火）14時～21時>

- 14:00 開会（招きのつどい）
- 15:00 基調講演「わたしの歩みー水平社100年」  
山本栄子さん
- 17:30 ホテルチェックイン、夕食
- 19:00 主題講演「全国水平社大会宣言について」  
前川修さん
- 20:30 フィールドワーク工程説明、21:00 解散

#### <2日目：27日（水）9時～17時30分>

- 9:00 「崇仁・東九条の歴史とこれから」  
前川修さん
- 10:30 「差別の現実と教会」 朴実さん
- 12:00 昼食
- 13:30 各コース集合、フィールドワーク移動
- 14:00 フィールドワーク 6コース毎に出発
  - ① 東松ノ木団地のまちづくり
  - ② 崇仁地区の歴史と現在
  - ③ コミュニティカフェほっこり
  - ④ 地域・多文化交流ネットワークサロン
  - ⑤ 東九条マダン
  - ⑥ NPO 法人京都コリアン生活センター  
エルファ
- 17:30 終了・解散 夕食（各自）

#### <3日目：28日（木）9時～12時>

- 9:00 分団、全体会、部落解放センターより
- 11:30 閉会（出発のつどい）
- 12:00 解散

### 1日目 基調講演：

「わたしの歩みー水平社100年」

講師：山本栄子さん

報告 茨城・鹿島教会員 山本安生

92歳の山本さんは、ご自分の生い立ちに始まり、朝田善之助さんとの出会い、識字教室で40歳ごろから自らも学び、地域の中で自宅の部屋を使って識字教室を開いた。識字教室で得た文字の力で調理士免許や自動車運転免許など取って仕事につくことができた。やがて、被差別部落を支援する法律がなくなることにより、識字教室がなくなった。そして一般の先生と生徒の交流も無くなった。しかし、今でも部落差別は存在している。「出会った人を大切にしたい！」と思ってきた。朝田善之助さん（直接には「おっちゃん」と呼んだ）の言葉に教えられてきた———・人とケンカするな。・人を大事にせよ。「福田村事件」の映画を皆さんに見てほしい。香川から菓の行商で来ていた人たちが、関東大震災直後に、言葉のなまりがひどかったので朝鮮人と間違えられて15人中9人が殺された。行商に出なければならなかった事情を知ってほしい。それから「私の部落の話」という映画も見てほしい。



左：山本栄子さん

## 1 日日夜 主題講演：

### 「全国水平社大会宣言について」

講師 前川 修さん

報告 栃木・益子教会牧師 大下正人

前川修さんが、水平社創立大会宣言を歴史的背景と部落差別問題の観点から講演された。

101年前に書かれた「全国水平社創立宣言」と部落問題には大きな隔りがあり、創立当時の解放論と現在の部落差別問題に当てはめるのは難しい。

また水平社の思想と神が人となったことを信じるキリストの思想が相反する

ところも指摘された。そして、水平社創立宣言は、部落民意識と民族意識が混在しているため、部落問題に混乱を与えてはいないか？と問題提起された。



前川 修さん

を潜り抜け、被差別民や在日コリアンをはじめとする社会的弱者の立場に置かれる全ての人々が共生できる街を形作っていくための働きが示された。

なぜ同和問題と在日コリアンの問題が同じ土俵で語られるのか、と疑問に思っているが、歴史的背景を抑えた上で、実際の生活の声を聞くことで、納得がいった。



朴実さん

## 2 日目午前 講演

### ① 「崇仁・東九条の歴史とこれから」

講師 前川 修さん

### ② 「差別の現実と教会」

講師 朴実さん

報告 新潟・新潟信濃町教会牧師 盛合尊至

- ① 前川氏の講演「崇仁・東九条の歴史とこれから」では、京都の古地図などの資料を用いて崇仁および東九条という地域がどのように現在のような形になったかが示された。同和地区として存在していたこの地域に、戦前に在日コリアン一世の人々が移り住み、被差別民との混在が始まったという。戦後を迎えた後も、この地区での混在は続いていたが、行政による政策など、その時その時の社会の動きによって翻弄されながら現在に至る。
- ② 朴実氏の講演「差別の現実と教会」では、氏の個人史を通してこの地区に暮らす在日コリアンの思いが語られた。数々の差別の苦難

## 2 日目午後 フィールドワーク

### ④地域・多文化交流ネットワークサロン

報告 茨城・鹿島教会員 山本安生

私の参加したフィールドワーク④の場所は、京都駅の南側で駅に近い東九条地区のほぼ中心に位置する、少し大きめの集会場で、広場がついていた。その中の集会室で、さまざまな背景を持つ人々と共に生きることを、「幅広い多文化共生」と呼んでいるということ、「多文化共生社会」を目指すネットワークサロンがはじまった経緯と、現在目指している活動、時代の変化の中で建物の老朽化による建て替えや空き地の利用の変化などの説明を聞いた。ここには66団体が所属している。出身国もアジアに限らず多数で活動の種類も多数あり、この集会場を打ち合わせや活動に使いたい団体は低料金で使うことができる。そして、活動の中で相談したいことがあれば、どんなことにも相談にのることにより、個人的な関係から団体としての強い関係性ができているということでした。そして、大人から子供まで参加し、共同で実施する活動として、「春まつり～多文化にふれるおまつり」、コロナ禍で始まった清掃活動「東九条ゴミコロリ」があって、参加者が協力し企画実施されている。

今回のフィールドワーク参加の感想として、差別をなくす為にお互いに歩み寄ることの大切さが、まさに此処に実現されていることに感銘をうけた。

### 3日目 分団、全体会、

#### 部落解放センターよりの報告

報告 茨城・竜ヶ崎教会牧師 飯塚拓也

3日目は、午前9時から11時30分まで、分団毎のまとめの時間と全体会、そして部落解放センターよりの報告があり、11時30分からは「出発のつどい（閉会礼拝）」がありました。

分団では、基調講演をはじめ様々なお話を聞いた感想やフィールドワークでの学びを分かち合い、全体会では各分団で話し合われたことの分かち合いを中心に、3日間の全国会議の振り返りを行うことができました。最も印象的なことは、コロナによって中断されていた対面での会議が重要だったと思います。集まって話すことが当たり前だったことが決して当たり前ではなく、私たちは神さまの導きで共にいることを感謝しました。会議の最後に、「次回は奥羽で」の発言があり、全国会議がこれからもつながっていくことに希望を持ちました。



「出発のつどい」（閉会礼拝）

### 新潟地区部落解放講座の開催

「新潟同宗連の活動のこれまでとこれから～差別戒名の問題を通して～」

報告 新潟・新潟信濃町教会牧師盛合尊至

「部落解放講座」を、10月9日（月）に東中通教会を会場に新潟地区が担当地区として行った。浄土真宗本願寺派極楽寺の前住職・浅田秀

潤師を講師に、差別戒名を巡る問題と新潟県の部落差別の現実について学んだ。

23名（講師、教団含む）の参加者が与えられた。距離的な問題のため、教区の行事ではあるものの、新潟地区以外からの参加者がいなかったこと（Zoom参加者あり）は残念だった。

普段聞くことのない仏教の視点からの講演を聞いたことは刺激になった、新潟にも依然と部落差別の陰が差していることに気付かされた、との参加者からの声があった。

### 「10・31 狭山裁判の再審を求める

#### 市民集会」が日比谷公園で開かれる

今年の5月1日で事件発生60年が過ぎ、この10月31日には石川一雄さんの無期懲役判決から49年が経過したのです。この日、東京・日比谷公園野外音楽堂で持たれた市民集会では石川一雄さんの見えない手錠を外す為に、鑑定人尋問の実施を強く訴えたのでした。なお、市民集会に先立ち午前10時30分から、「狭山裁判再審を求めるキリスト者前段集会」が港区芝公園の聖公会聖アンデレ教会で行われた。

### 部落解放センター活動献金のお願い

教団部落解放センターは、人件費は教団職員として扱われますが、活動はすべて献金で対応することとなっています。このため、関東教区では35万円の活動献金を目標にしています。2022年度は、280,180円が献げられました。目標の約80%でした。教区内のすべての教会が献金に加わってくださることが必要です。どうかよろしくお願ひいたします。

部落解放センター運営委員 飯塚拓也

### 関東教区部落解放推進委員会委員の連絡先

委員長	栗原 清	04-2962-6191
宣教部委員長（兼 部落解放センター運営委員）		
	飯塚 拓也	0297-64-3768
教師部委員長	成田 顕靖	0294-21-4565
新潟地区	盛合 尊至	025-231-4868
群馬地区	川上 純平	0276-25-4334
栃木地区	大下 正人	090-4459-5450
茨城地区	山本 安生	0299-82-9169
埼玉地区	平澤 昇	048-852-1379
教会婦人会連合	川村 道子	048-687-4821